

本別公園に中高生を呼び込むプロジェクト

小林紫音 遠藤由唯 大市そら 林双葉

概要

私達は本別公園に中高生を呼び込むにはどうしたらよいのかを考え、フィールドワークやアンケート調査、ロジックツリーなどを使った現状分析、仮説構築などを繰り返し行い解決策の検討をした。

1. はじめに

私たちは本別町の活性化を目指し、本別町や本別公園の自然を使ったものを考えようとした。初めは、今の本別公園には自然を使った遊びなどが無いのではと考え、自然を使いながら中学生や高校生も楽しめるアスレチックを作ろうと考え、「自然を楽しむプロジェクト」として活動を始めた。しかし、このプロジェクトを進めていくうちに、中高生を呼び込むことに視点が向いていった。そのため、自然を楽しむだけでなく、自然を使って中高生を呼び込もうと考え、本別町の自然を利用することが解決の方策となると考え、「本別公園に中高生を呼び込むプロジェクト」として活動することにした。活動を始めるにあたり、公園に中高生が来ていないのではないかと考えた。また、今の公園には中高生が楽しめるアスレチックや施設がないのではないかと考え、公園の自然を生かしながら中高生も楽しめるアスレチックを作成しようと考え、このプロジェクトを進めていくこととした。

2. 課題について

活動を始めた当初は「自然を楽しむプロジェクト」として活動を行い、本別公園の自然を使い中高生も楽しめるような、自然を使った難易度の高いアスレチックを作ろうと考えていた。しかし、この課題で話し合っていくうちに、自然を使うことよりも町内や町外の中高生を呼び込み、本別町の観光客を増やし、本別町の活性化をすることが目的となっていった。そのため、設定課題を今までの課題から「本別公園に中高生を呼び込むプロジェクト」とすることとした。

なぜ、中高生を呼び込むのかというと、SNSをよく使う中学生や高校生を呼び込むことで、本別町や本別公園の良いところなどをSNSで発信してもらい、観光客を呼び込めると考えたからだ。また、今は本別町を知らない人たちにも新しく知ってもらえれば、今よりも活気のあふれるよい街になると考えた。そこで、現在、中高生が本当に来ていないのかを確

かめるために、公園内のフィールドワークや町内の中高生を対象としたアンケート調査をもとに、現状分析を行った。[表1]



[表1：年代別 SNS 利用率]

3. 現状分析について

フィールドワークを行い感じたことや分かったことは、夏休み中だったこともあり、町外からの小学生以下の児童を連れた観光客で遊びやキャンプでの利用者が多く、町内の利用者で多かったのは年配の方々で、散歩での利用が多いように感じた。

また、町内の中高生とフィールドワークの時に公園に居た人を対象としたアンケートで分かったことは、アスレチックやゴーカート、ボートなどの遊べるものは人気が高く、利用したことのある人の割合が多いことも分かった。しかし、バンガローや御所、ひょうたん沼は知名度が低く、「今後も利用したいと思わない」や、「知ってはいるけど利用したことがない」などの意見が多かった。そして、公園は夏休みがある7月や8月に利用することや、利用したいと思う方が多いが、キャンプ場の利用者は少なく、遊びの目的で利用することが多いということが分かった。[表2]

また、利用しない人の理由で多かったのが、「交通手段がない」や「距離的に遠い」という意見が多かった。その他にも、「時間がない」や「自然や遊びに興味が無い」などの意見があった。そして、「新たにどんな遊具や施設があったら来たいか」というアンケートでは、上位から順に「水上アスレチック」「水遊び場」「温泉」「ジップライン」となり、室内

の遊びよりも、屋外の遊具や施設の方が人気あるということが分かった。[写真・グラフ]



〔表2：公園を利用したい月〕



〔写真・グラフ：あったらよい遊具・施設〕

4. 仮説について

私たちは、現状分析から分かったことをもとに、なぜ、中高生は公園を利用しないのか、そして、どうしたら本別公園や本別町に興味を持ち、知ってもらえるのか、ロジックツリーを用いて仮説を立てることにした。まず、初めに、「なぜ中高生が公園を利用しないのか」について考えた。すると、「魅力が伝わっていない」「公園の魅力不足」「アクセス問題」の3つに絞ることができた。

1つ目の、公園の魅力不足では、アスレチックの大きさが小さく、「中高生が遊べる大きさではない」ということや、公園でのイベントが少ないなどが挙げられた。

そして、2つ目の、「公園の魅力が伝わっていない」では、本別町を知らないことや、公園は広いのに看板などの目印になるものが少ないなどの意見があった。

さらに、3つ目の「アクセス問題」では、公園までの公共交通機関がないや、公園内の各施設が遠いことなどが挙げられた。この問題の中で解決策として初めて出てきた案の一つが、中高生が楽しめるアスレチックなどを作ればいいのかと考えた。理由として、中高生向けのアスレチックを作ることで、町内の中高生はもちろん、高校生が媒体となって情報が広がり、町外の中高生も興味を持って

来てくれるのではないかと考えた。

この議論において、探究コーチや包括ケア研究所の藤井さんからの助言もあり、アスレチックだけではなく、高校生ならではのイベントの企画も視野に入れることとした。

理由として、イベントを作って実行する方が自分たちでできることも多くなることや、アスレチックを作るよりも手軽に実行できると考えた。また、高校生がイベントを考えることで新しいイベントを考案し、中高生が興味を持ち易い遊具や施設などを作れると考えた。

これらのことを踏まえて、解決策の検討を行った。

5. 解決策について

現状分析や仮説でわかったことを生かして、中高生をどのように呼び込むかを考えた。まず、アンケートで分かったことから今はあまり知られていないひょうたん沼をきれいにして、そこに水遊び場などを作ろうと考えた。そして、イベントでは、高校生が主体になりライブや冬のスポーツなどを行えばよいと考えた。この二つを比較した結果、イベントを行うことが最も良い解決策となった。

6. 成果と課題

〔成果〕

探究コーチに多くの助言を頂きなら、自分たちで解決の方策を考えながら進めることができたので、良かった。

今までとは違う視点から物事を考えられるようになった。

〔課題〕

アンケートを取る段取りが悪く、予定よりも遅くなってしまった。

7. まとめ

時間がなくてしっかり解決策の実行までに至らなかった。また、この課題をこれ以上、広げていくのは難しいと思うため、この活動を行うためには、この解決策をもとに実践していく方法がよいと思う。

最後に、アンケートに協力していただいた皆様、コーチの皆さま、藤井さんご協力ありがとうございました。

本別公園に中高生を呼び込むプロジェクト

林双葉 大市そら 遠藤由唯 小林紫音

概要

本別の街を活性化するために、本別公園に中高生を呼び込む為の方法を考えた。

1. はじめに

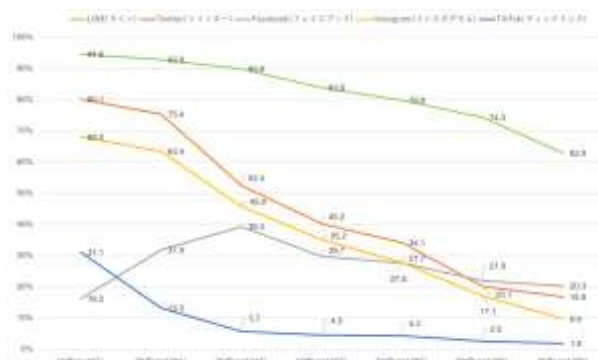
自分たちが通っているもしくは住んでいる街を活性化するため自分たちは本別公園を活性化しようと考え、このプロジェクトにした。

最初は自然を楽しむプロジェクトという名前だったが班で話し合った結果、本別公園に人が来ないことが課題だと考え、本別公園に中高生を呼び込むプロジェクトに変更した。

2. 課題について

中高生が来ていないことを課題と捉え、町内・町外の中高生を本別公園に呼び込むにはどうしたらよいかについて、①～④を考えた。

- ① 本別町を知ってもらう
- ② 今より活気が溢れる施設にする
- ③ 本別公園の魅力を広める
- ④ 認知度を高めるため SNS の利用率を増やす



〔表：年代別 SNS 利用率〕

SNS を使って本別公園を知ってもらう。本別公園のホームページはあるが、ホームページを知らない人がいるので、もっと SNS や Instagram などを利用したい。

さらに、本別公園に中高生が来ていないという課題から本別公園の魅力不足・魅力が伝わっていないことやアクセス問題に絞って考えた。本別公園の魅力不足は中高生が楽しめるアスレチックがない、魅力が伝わっていないのは本別公園が中高生を対象にしていない、アクセス問題は公共交通機関がないなど具体的に思考を広げた。

大きく3つに分けた問題の中で何が原因で中高

生が来ないのか調べるためにアンケート調査を行った。アンケートは197人から回答を得ることができた。

3. 現状分析について

本別公園の現状について、以下のように考えた。

- ① 町内の中高生は来ている
- ② 町外の中高生は来ていない
- ③ ヒョウタン沼を知っている人が少ない
- ④ 新しい遊具や施設を求める中高生が多い
- ⑤ 多くが家族連れで来ている

フィールドワークを行って、上記のようなことが分かった。家族連れで来ている人は町内では14人、町外では133人と多くの人が利用しているが町内・町外の中高生はほとんど来ていないことが分かった。町内の中高生は来ているが何回も利用しており、興味がない人や時間がなくていけない人もいた。実際に公園の様子を見て分かったことは、思ったより公園が広いこと、公園が山に囲まれているから自然とたくさん触れ合えること。遊具については小学生向けのものが多く、中高生が楽しめるものが少ないため、公園に中高生が来ないのではないかと考えた。

4. 仮説について

公園に中高生を呼び込むためには、以下の観点で検討を行った。

- ① 町外の中高生に本別公園を知ってもらう
- ② 興味を持ってもらう

アンケートの結果、夏に遊べるアスレチックやジップラインなどがあると中高生が来るのではないかと考えた。

5. 解決策について

設置する遊具や施設及びイベントについて、以下のように考えた。

(遊具・施設)

- ・水上アスレチック
- ・ジップライン

・サバゲー会場

水上アスレチックはヒョウタン沼に、サバゲー会場は元静香山センターに設置すると良いと考える。



〔写真：水上アスレチック〕



〔写真：ジップライン〕

(イベント)

- ・高校生主催のイベント ～ ライブなど…
- ・冬のイベント ～ 冬のスポーツなど…

高校生主催のイベントでは、ライブや高校生が考えた食べ物を販売、冬には雪合戦などの冬のスポーツを行うとよい。しかし、遊具や施設を設置するのは時間とお金がかかるので、まず、実現可能だと考えられる高校生が主催するイベントの開催を実現させることが今の私たちにできることだと思う。

6. 成果と課題

〔成果〕

- ・答えがないため、自分で納得するまで考えることができた。
- ・課題設定から解決策まで自分たちなりの答えを出せた。
- ・フィールドワークにおいて、積極的に聞き取りなどを行うことができた。
- ・ロジックツリーを使いながら、論理的に考えることができた。

〔課題〕

- ・自ら意見を言うことができなかった。

- ・部活動などもあり、放課後、作業ができず他の人に任せてしまった。
- ・発表時、質問に対して的確に回答ができなかった。
- ・主体的に自ら行動できればよかった。
- ・夏休みにフィールドワークができればよかった。
- ・自分たちでは解決できないものは色々な人に聞けば良かった。
- ・小学生にもわかりやすい質問を作れば良かった。
- ・発表時、最も強調したいところを出せば良かった。
- ・夏と冬で求めているものが違うからもっと何が欲しいのか調べる必要があった。

7. まとめ

一年間、この活動を行う中で、いろいろな事を学ぶことができた。本別という町を理解することができました。私は、本別でなく陸別に住んでいるため、今後、大人になってこの地域に戻ってくる事があれば、この経験を生かしてこの地域の活性化につなげたいと思います。そして、この活動を通して自分の進路について深く考えようと思いました。1度しかない人生で悔いのない進路選択をしたいので、自分には何が合っているのか、何が向いているのかを真剣に考えようと思いました。

この本別公園活性化のプロジェクトという探究活動は一定程度の解決策を見いだすことができたので、継続をしなくても良いと私は思う。しかし、他学年には地域を理解する取組としてはよいものなので継続してやってもらいたいとも思っている。自分たちが出せなかった意見が新たに出るなどきっと面白いものになるかもしれないという期待感があるからです。在校生に期待しています。

最後になりますが、このプロジェクトに協力してくれた皆さん本当にありがとうございました。



本別公園に中高生を呼び込むプロジェクト ～とち創生学による探究活動～

大市そら 遠藤由唯 小林紫音 林双葉

概要

本別公園に中高生を呼び込むためのプロジェクトを行ったので、この活動について報告する。

1. はじめに

私たちは、はじめに本別公園に視点を置いて、自然を使って楽しむプロジェクトをテーマとして考えてきたが、探究コーチの方々と話し合いを進めていくうちに、本別公園に中高生が来ていないのではないかと考えから、「本別公園に中高生を呼び込む」というテーマを掲げ、活動を行うこととした。

2. 課題について

本別公園に中高生が来ていないという課題をもとに、なぜ、中高生が来ていないのかについて、ロジックツリーで現状分析を行った。その結果3つの要因があげられた。[図]

- ・本別公園の魅力不足
- ・魅力が伝わっていない
- ・交通アクセスの問題



[図 : ロジックツリー]

3. 現状分析について

実際に、中高生が本別公園に来ていないのか確かめるため、町内の中高生にアンケート調査を行った。その結果から現状分析を行ったところ、私たちは町内の中高生が来ていないと思っていたが、アンケート調査の結果からは、実際は、中高生は本別公園に来ていたことが分かった。

しかし、夏休みのフィールドワークで公園利用者に聞き取りを行ったところ、町外からの家族連れが多く利用していたが、中高生は来ていなかった。

4. 仮説について

アンケート結果から、町内の中高生の中には何回も利用している人や、興味がない人や時間がなくて利用しない人もいた。

そのため、仮説構築で町内・町外の中高生に本別公園を知ってもらい、本別公園に興味を持ってもらうために中高生向けの遊具などを作ることで解決できるのではないかと考えた。

5. 解決策について

解決案は、「公園に設置するもの」と「イベント」の2つに分けた。設置するものはジップライン、ヒョウタン沼に水上アスレチックなどで、イベントでは高校生が主催する季節に応じたイベントを開催したいと考えた。

6. 成果と課題

[成果]

自分たちで課題を見つけ答えのないものにたどりつくのはとても大変だった。しかし、実際に訪れた方に話を聞いたり、アンケート調査を行ったり、今までに経験したことのないことをたくさん行うことができた。

[課題]

確実な解決策までたどり着くことができなく、実現できなかった。

7. まとめ

高校生の私たちの頭では何度も限界のところまでいき、息詰まることもありましたが、班員や探究コーチの方々と話し合いを重ね、なんとか進めてきました。正直、早く終わりたいと思ったほどきつかったのですが、終わった今となっては達成感を感じています。とても貴重な体験だった。ここまで来ることができたのは支えてくださった地域包括ケアの藤井さんやコーチの方々、小学校、中学校、そして本別高校の生徒の方々の協力があつたからです。ありがとうございました。

本別公園に中高生を呼び込むプロジェクト ～とまち創生学による探究活動～

遠藤由唯 大市そら 小林紫音 林双葉

概要

本別公園に中高生を呼び込むためにどのような解決策があるのか検討を行った。

1. はじめに

本別町においては過疎化が進んでおり、子どもが減少している。本別町の観光名所として、十勝の地域を代表とする本別公園がある。しかし、観光名所となっている本別公園には中高生が来ていないのではないかと考えた。このことから、本別公園に中高生を呼び込むための、公園の利用状況と今後どのようにすれば活性化できるのかについてグループで検討を行った。

2. 課題について

はじめにあったように中高生が来ていないと考え、中高生を呼び込むことを課題とした。そして、本別公園の利用状況を把握し、中高生を呼び込むためにはどうしたらよいかについて、グループで話し合いを行った。

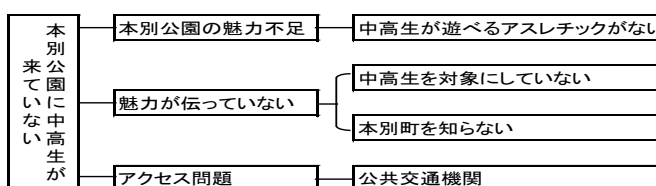
3. 現状分析について

初めに課題について、ロジックツリーをもとに課題を解決するために問題点をあげた。[図] 次に、問題点と現状が一致しているのか現地調査を行った。現地調査では公園を管理する職員と実際に利用している利用者にアンケート調査を行いながら、施設の利用状況を確認するために施設内も巡った。また、職員からも聞き取りを行ったり、中高生にもアンケート調査をした。[写真]



[写真：公園での調査]

さらに、他の地域の同じような施設について、本別公園には設置されていない遊具についても調べてみた。



[図：課題のロジックツリー]

4. 仮説について

本別公園にある遊具が小学生以下を対象にしており、中高生が遊べるものが少なかった。町内の中高生は利用していたが、町外の中高生はあまり利用していなかった。このため、町外の中高生だけではなく、町内の中高生にも、もっと来てもらうために本別公園を知ってもらい、興味を持ってもらうために中高生向けの遊具などを設置すれば解決できるのではないかと考えた。

5. 解決策について

公園に中高生を呼び込むため、公園に設置するものの、イベントの2つについて検討した。設置する遊具では、ジップライン、ヒョウタン沼に水上アスレチック、元静山センターにサバイバルゲームができる会場を設置すればよいと考えた。また、イベントにおいては、高校生が主催のイベントで季節に合ったイベントを開催すればよいと考えた。例えば、夏にはライブや高校生が考案した商品の販売。冬には雪合戦などの冬のスポーツを行うことを考えた。

6. 成果と課題

[成果]

現地調査やアンケートをもとに、本別公園の利用者増加のための解決策を考えることができた。

[課題]

解決策で提案した内容では、多額の資金を必要としたり、時間のかかるものもあり、実現するのが難しいものが多かった。

7. まとめ

解決策を実行するまでには至らなかったが、もし実際に行うとするならば小規模なイベントの開催から始め、利用者の増加を目指したい。今回、とまち創生学を通して、改めて本別町について知ることができ、町の活性化を実現するためにはとても大変なことを学んだ。ご協力して頂いた皆様、ありがとうございました。